絵本を読む子どもたちのしあわせな顔がなによりうれしいです

Littleblackoz Studio
絵本作家
ボムさん＆オイさん

「マレットファンの周りの輝く人」第4回。絵本作家のご夫婦をバンコク郊外の自宅兼スタジオに訪ねました。

発売されたばかりという絵本「บาบา（バーバー）」の表紙を一目見て惹かれてしまいました。子どもたちの前に突然現れた主人公のバーバーは、こわそうな顔をした見たこともないような生き物で、発する言葉は「バー、バー」だけ。全身毛むくじゃらのバーバーですが、頭にはかわいらしいお花のツノがあって、しあわせな時はお花が咲き、悲しい時は枯れちゃうのだそうです。

「バーバーのモデルはボムさん」と教えてくれたのはオイさんです。大きな身体で朴訥な印象のボムさんと、小柄でくるくるした大きな目がキュートなオイさんは、美術大学の同級生で今はご夫婦。15年ほど前から二人で「リトルブラックオズ・スタジオ（Littleblackoz Studio）」という制作ユニットを立ち上げ、絵本作家として活躍しています。

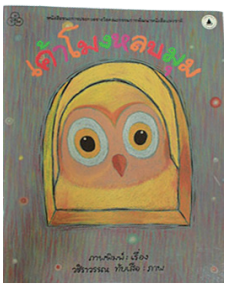
作品のアイディアは身近なところにあふれている

「バーバー」のアイディアはこんなことから生まれたそうです。ある日、子どもとお友達になったボムさん。楽しい時間を過ごしていましたが、お母さんはボムさんのちょっとこわそうな感じを見て心配になり、子どもを連れて家に帰ってしまいます。でもその子はボムさんが大好きなんですね。ボムさんに出会ったことで少し変わりました。その変化がうれしくて、今度はお母さん自身が子どもを連れてボムさんのところに来ました。「これからもよろしくね」と。そんな出来事もあって、この絵本では「見た目だけで決めないでね」というメッセージを伝えたいと考えたそうです。

二人の作風はじわりじわりと心にしみ込んでくる温かい絵ときれいな色、そして日々の暮らしからこぼれ落ちたようなやさしいおはなしです。

2018年9月発売の「บาบา（バーバー）」。に。バーバーの目は二人の愛猫ローニンの目だそうです。

中央は赤ちゃんフクロウが飛べるまでの絵本。ある日、ボムさんのお腹にくっついてきた小鳥を見ておはなしが浮かんだそうです。愛猫ローニンも絵本の主役に。



オイさんが学生時代に制作した絵本は賞を受賞。でも絵本は作るほどに大変だと感じます。